

姉妹・友好都市

SISTER CITIES NEWS

ニュース

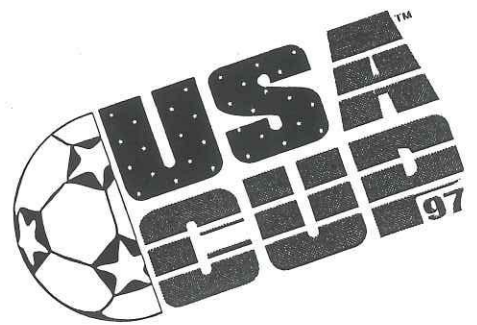
協会報

第 29 号

平成9年11月14日発行

編集・発行

茨木市国際親善都市協会



'97USA杯の広々としたグラウンドで

目次

- 驚きと感動の連続! '97USA杯に参加 P.2・3
- ミネソタ州の大自然を満喫 P.4・5
- 盛り上がったJICA研修員とのふれあい交流 P.6
- WE ARE FRIENDS、世界の人たちと友だちになりませんか P.7
- ミネソタ州日本語村だより、寄付、会員募集 P.8



'97USA杯開会式



白熱の試合



シュート!!

驚きと感動の連続! '97USA杯に参加

7月12日から22日までの10日間、国際青少年サッカー大会USA杯'97に参加するためミネアポリス市へ行ってきました。茨木市からは8中学校の1・2年生を2チーム（茨木FC、茨木キッカーズ）に編成し、選手35人が参加しました。

年々、参加チームも増え、全米から外国を含め869チームが参加し、ナショナルスポーツセンターのメイン会場での開会式の入場行進には2時間程かかりました。選手は旅の疲れと時差ぼけの上、炎天の中で、ずっと整列していたので少し疲れている様子でしたが、来賓でブラジルの元サッカー選手、ペレがオープン車に乗り、入場してくると満員の観客も総立ちになり、拍手で迎えました。ペレの祝辞が終り、花火が打ち上げられた頃になると、茨木市の選手達は元気になっていました。

翌日から予選リーグが始まり、55面ある芝グラウンドで、一斉に試合をしている光景は、日本では考えられないので、うらやましく感じました。

予選リーグの成績は茨木FCチームが3勝0敗、茨木キッカーズチームは1勝1敗1分で得失点差で両チームとも、A～CリーグのプレーオフAリーグに勝ち進み、なかでも茨木FCチームは同年齢でありながら、体格差と芝グラウンドに不慣れなハンディを苦にせず、ベスト16に残ったことは、大健闘でした。

USA杯のもう1つの楽しみは、ナショナルスポーツセンターの講堂でのパッチ交換会。毎日、午後1時から午後3時まで行なわれ、選手達は言葉が通じなくても、心が通いあい、国際交流を深めました。

試合の合間には、ユニフォーム姿でミネアポリス市庁舎へ表敬訪問し、姉妹都市としての絆を深め、より一層の交流を誓いました。

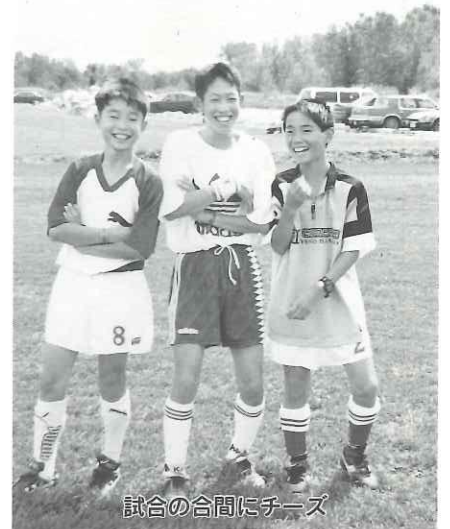
中学生の選手達は、ホームステイでお世話になった家族の暖かい心を思い出し、貴重な経験を生かして、これからの茨木市の国際交流を担ってくださることを願います。



外国の選手と



メジャーリーグ観戦



試合の合間にチーズ



MICCA会長と



お世話になったホストファミリー

ミネアポリスで一番思い出に残ったこと

南中学校2年 福田 洋史

僕がミネアポリスで一番思い出に残ったことは、ホストファミリーと一緒に食事したことです。最初は、とても静かで、遠くにある肉が取り辛かったり、コーンフレークの味にご飯と味噌汁を思い出したりしたけど、最後の方では、自然に手が進み、ジェームスや弟と簡単な会話ができるようになり、その時、ホームステイはいいなと実感しました。

サッカーでは慣れない芝で思い切り走れたことが思い出に残りました。その他、プールや水上スキー、ゴーカートなど日本とはひと味違う貴重な遊びができたし、メジャー観戦、ディズニーランド、モール・オブ・アメリカなどスケールの大きさに驚きました。

USA杯の感激

天王中学校2年 金山 大輔

ミネアポリスに着いた次の日、USA杯の開会式で、生まれて初めてペレを見ました。とても嬉しかったです。その夜は、試合が始まるので、緊張して眠れませんでした。

試合の前、芝を踏んだら、夜の雨のため水がいっぱい出てきました。レフリーの笛が鳴って、30秒位で1点入れられました。この試合は7-0で負けてしまいました。次の2試合は1勝1引き分けでした。ホストチームとの対戦が終わった後、プールに誘われ、ジャンプ台から跳んだりして遊んで戻ると、いきなりプレーオフと言われました。試合は負け、次の日からはフリーになりました。

USA杯に参加していい経験になりました。

'97 Summer in Mpls.

ミネソタ州の

平成9年7月31日から8月10日までの11日間、14人の女子中・高校生が姉妹都市アメリカ・ミネソタ州・ミネアポリス市等を訪問し、3泊4日のホームステイや4泊5日のキャンプ生活を楽しみました。

7月31日、時差ぼけも無く、無事ミネアポリス空港に到着し、エリクソン・ミネアポリス市・茨木市文化協会会長をはじめ会員の皆様の熱烈な歓迎を受けました。

市内観光、表敬訪問を終えた後、エリクソン会長の自宅でホストファミリーと面会し、期待と不安を胸に、

それぞれのホームステイ家庭へと向かいました。

8月3日、ホームステイを終えてキャンプ場へ出発しようとする時、ホストファミリーと名残をおしんで、泣き出す子供達もいました。



彫刻公園でポーズ



ホストファミリーと対面



キャンプ場でアーチェリー



カヌーで川下りに挑戦

目的達成

茨木市園田町 堀井沙織里

私の今回の目的は外国人と話すことで、楽しみもまた外国人と話すことでした。訪問団員の中には友達同士で参加している人もいて、一人で参加していた私にとっては友達ができるかどうかとても不安でした。

まず、ホームステイ先で私の目的は達成されました。ホストマザーが日本語をととても上手に話され、日本語を勉強している娘さんともお互いに英語と日本語を教え合いながら楽しい会話ができました。二人でホームステイをしていたので心強いせいもあったかもしれませんが。英語力はなくても話は通じるんだと

大自然を満喫

どの訪問団員も口々に「ホームステイは最高やったで」と感激も覚めやらぬ状態でミネアポリス市を後にしました。

キャンプ場では、10分間ひたすら泳ぎ続ける過酷な水泳テストに始まり、アーチェリー、バレーボール、カヌーでの川下り、フォースクエア・ゲーム、キャンプファイア等々、連日エキサイティングなメニューが目白押しでした。また、キャビンの中では、夜が更けるのも忘れて、アメリカの少女達とゲームや歌を楽しみ、5日間はあるという間に過ぎていきました。

ホームステイでアメリカの家庭生活を垣間見、オジケタ・キャンプ場ではアメリカの大自然に触れ、ロサンゼルスユニバーサルスタジオでハリウッド映画を実体験するという今回の訪問は環境も内容も変化に富み、訪問団員全員、「貴重な体験ができた」と満足して帰国しました。

いう自信ができました。

キャンプ場では、外国人との交流を目的としていたので、日本人の友達ができるかどうかとても不安でした。でも、同じ立場に立っている者同士、自然と絆のようなものができました。

一緒にいたのは、ほんの一週間足らずでしたが、朝から晩まで友達とずっと一緒に生活したせいか、キャンプ場での生活は長かったはずなのに本当に短い5日間でした。

今回の訪問は、私が目的や楽しみにしていた外国人と話すこと以外にも、素晴らしいもの、得るものが沢山ありました。

本当に一生に一度できるかできないかの貴重な体験ができたこと、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。



楽しい夕食



キャンプ場を去る日



MICCA主催さようならパーティー



友好市民の証をもらう堀井さん

盛り上がったJICA研修員とのふれあい交流

ボランティア通訳 中込 善雄



中込さん

9月20日(土)快晴。午前9時30分、世界18カ国から訪日した研修員20名と、ふれあい交流参加の市民30名が、市役所に集合し、バス2台に分乗して出発しました。

最初訪問したのは茨木市が世界に誇れる「環境衛生センター」。コンピューターで自動制御される大型クレーン、溶融炉、燃料室を経て、鉄とスラブにリサイクルされる工程に参加者全員が目を見張りました。「自国では民間業者が有料でゴミ回収をしているが、茨木市の制度を導入できれば、市民も大いに助かるのに……」との研修員の声も聞かれました。

昼食は竜王山荘にて静かな田舎風景を楽しみながら、グループ毎にテーブルを囲みました。午後はサッポロビールの大阪工場を見学。完全に省力化された工場に驚くと共に、「このような工場を作ったら、失業問題が発生して大変だ」と心配する研修員も多数いました。午後3時半、予定された見学を終え、研修員の宿舎である大阪国際センターへ。研修員の日本語による自己紹介と、自国の歌を披露する余興も出ました。中でも日本/パナマ代表の国際デュエットが、「ベサメ・ムーチョ」を千鳥足で合唱すると宴は最高潮となり、多数の研修員から市役所及びJICAの職員に謝意が述べられました。時間も忘れて談笑した国際交流会も午後5時過ぎに成功裡に終了。

(JICAとは、日本国際協力事業団の略称)



環境衛生センターで



楽しいおしゃべりで交流



デュエットで最高潮



盛り上がった交流会

WE ARE FRIENDS

青少年活動室



講師のウェンディー・久徳先生

“We Are Friends”, a group that meet to give you a chance to use the English you are learning in school, is open and free to all students. Every month we

have a different theme. Sometimes it is American culture, sometimes it is talking and singing with guests from other countries and sometimes we



ハロウィンパーティーでのゲーム

have parties. So if you have time, please come and join us. It is a good opportunity and a lot of fun, too.

青少年活動室は、学校で習った英語を、無料で気軽に使うための中・高校生を中心にしたグループです。アメリカの文化、色々な国からのゲストと歌やゲームでの交流、季節のパーティーなどなど毎月違ったイベントを、第3日曜日午後2時～4時まで行っています。あなたもぜひ遊びに来て下さい。楽しみながら英語が話せます!!

世界の人たちと友だちになりませんか？

茨木市姉妹都市活動室 (Ibaraki Intercultural Network)

ニュージーランド、中国、インド、フィリピン、ガーナ、トルコ、USA、英国、ボリビア……

昨年はこれらの国々のゲストを迎えて、各国のお話を伺い、楽しく交流しました。姉妹都市活動室 (IIN) は、ミネアポリス市民との交流の他に、近隣の外国人たちとの交流、異文化理解、日本文化紹介などの活動を行っています。

また、協会主催行事では通訳や運営面での協力をしています。

会員は高校生から70代の方まで幅広く、関心がある方なら誰でも歓迎致します。

— 今までの活動と今後の例会予定 —

- 10月2日(木) “China Today” Ms.李林梅 (China)
- 10月18日(土) “ヨルダン” Mr.B.Ammary (Jordan)
- 12月4日(木) Group Talk with Int'l Guests
- 12月20日(土) Int'l Year End Party



カナダからのゲストを迎えて

開催日時：毎月第1木曜10～12am、
第3土曜2～4：30pm

会 場：福祉文化会館401or203号室

問 合：協会事務局又は、

代表 高嶋俊男 (Tel/Fax 0726-36-6744)

Think Globally, Act Locally!

ミネソタ州日本語村だより

山手台五丁目 藤木 奈緒子

ミネソタ州ミネアポリス市から車で北へ5～6時間。小さな田舎町デントにある“Concordia Language College”主催の日本語村“森の池”での夏も3度目になりました。初めて高校生の会話クラスを担当した私は、今までのアート&ソングリーダーとは全く違う緊張感と責任感を味わいました。ディレクト・メソッド（日本語直接話法）で授業に臨み、上手に伝えきれずに意気消沈することも度々……。でも、その度に子供達の優しい笑顔と思いやりのある励ましに支えられました。そして、生きた日本語と英語を互いに学び合い、本当に素敵な経験をしました。“森の池”有志による老人ホームへの初慰問にも付き添える機会に恵まれました。代表の子供達は、恥ずかしそう

に、でも、堂々とホームの方々と交流を深めました。それから私自身茨木市主催の和太鼓講習の効果も大で、“森の池”での和太鼓クラブは大人気。数カ国語村（数千人）が一同に会する『国際の日』には、この和太鼓クラブが全村を代表して演奏を披露。大勢の特別招待客から、大拍手と賞賛を受けました。その各々場面での子供達の輝くような充実した表情は、忘れることができません。参加者皆で作り上げ、日本文化に親しめる“森の池”。「なおこ先生、また来年ね」去りゆく車の窓から手を振る子供達の声が耳から離れません。



老人ホーム慰問を終えて（前列左から2番目が藤木さん）



和太鼓クラブの子供達と

寄付

本市の国際交流事業の推進のためにと次の方から温かいご寄付をいただきました。ご厚志に心からお礼申し上げます。（4月～10月、敬称略）
〈市へ〉6月国際ゴルフ株式会社 （100万円）

● 会員募集 ●

本協会では、姉妹、友好都市交流をはじめ、国際交流に興味を持っておられる方々の入会をお待ちしています。

会員には、春と秋に発行する協会報や、協会が催す交流行事のご案内をいたします。

〈年会費〉個人会員（一般）2,000円 （学生）1,000円

団体・法人会員 5,000円

〈申込先〉協会事務局（市役所南館8階自治振興課国際交流係）

☎20-1604

